

1 梨の生育状況

梨の果実肥大は、7月18日の無作為調査の結果では、「幸水」の横径が 57.9mm と前年、平年並みとなっています(前年値 57.9mm 平年値 58.5mm)。

黒星病の発生は、昨年同時期と比較し同程度ですが、「幸水」の果実に感染しやすい時期であることから、引き続き発生防止対策の実施が極めて肝要です。(詳細は下記参照)。

なお、虫害の発生は少ない状況です。

2 黒星病の発生状況

①果実、葉等の発病状況

7月12日の発病状況調査結果では、「幸水」、「豊水」では新梢葉などで発病が見られていますが、発病果そう率は一昨年の28.8%に対し、8.2%と昨年同時期と比較して同程度です。

(品種別では、昨年と比較し「幸水」ではやや少なく、「豊水」で多い傾向です。)

表 黒星病発生状況(調査日:7月12日)

品種名	調査園地数	発病園地率 (%)	発病果そう率 (%)	部位別発病率						
				果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉 (%)		新梢葉 (%)		
						葉	葉柄	葉	葉柄	枝
幸水	68	67.6	7.7	1.2	0.4	2.0	1.9	2.3	0.3	0.1
豊水	27	77.8	13.6	0.9	0.5	3.2	4.3	5.2	0.7	0.0
新高	14	42.9	2.0	0.3	0.0	0.9	0.6	0.1	0.1	0.0
あきづき	4	75.0	3.5	2.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
合計・平均	113	67.3	8.2	1.0	0.3	2.1	2.3	2.7	0.4	0.0

H27年: 28.8%

【参考: 昨年同時期の発生状況】

表 黒星病発生状況(調査日:平成28年7月12日)

品種名	調査園地数	発病園地率 (%)	発病果そう率 (%)	部位別発病率						
				果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉 (%)		新梢葉 (%)		
						葉	葉柄	葉	葉柄	枝
幸水	68	85.3	10.8	1.5	0.7	1.4	3.5	3.1	2.4	0.3
豊水	27	74.1	6.9	0.4	0.3	1.0	2.9	1.9	0.8	0.0
新高	14	21.4	2.6	0.1	0.0	0.3	1.1	0.4	1.0	0.0
あきづき	4	50.0	4.5	0.0	0.5	0.0	1.5	2.0	0.5	0.0
合計・平均	113	73.5	8.6	1.0	0.5	1.1	3.0	2.5	1.8	0.2

②気象データによる感染危険度・発病危険度(千葉梨防除ナビより)

4月10日~7月14日の間で、感染危険度は36回とかなり多く記録されています(前年同時期までは17回)。

しかし、実際の発病程度は昨年並であることから、農薬防除や病斑の除去などの対策が確実に実施され、園地内の菌密度が低位に維持されているものと思われます。

<黒星病感染危険度の発生回数および指数>

	4月	5月	6月	7月	計
H29年	3 (1.6)	10 (2.4)	15 (3.0)	8 (3.7)	36 (2.8)
H28年	4 (3.0)	3 (5.0)	8 (2.1)	2 (1.5)	17 (2.8)

※ () 数値は、感染危険度指数(0~9までの10段階評価)

☆重要☆:

- 「幸水」の収穫期間中は農薬防除が困難となります。
- 農薬防除が不可能でも収穫期間中の黒星病の発生を抑えるためには、収穫直前まで、発生した果実、葉の病斑を除去し、感染源の密度を低下させることが極めて重要です。

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除 実施日
16	7月31日～8月2日	オーソサイド水和剤 80 1,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	3日 前日	300 ㍓	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	
特散	8月8日～9日 防除前に草刈りを!	マイトコーネフロアブル 1,500倍	前日	400 ㍓	ハダニ類	
特散	9月上旬 (「幸水」収穫終了後)	<u>フルーツセイバー</u> (特別散布) 3,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	前日 前日	300 ㍓	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	

※フルーツセイバーは、全品種が防除対象となります。
 ※アグロスリン水和剤は、「幸水」以外の品種（これから収穫される品種）が防除対象となります。

【注意事項】

- これからの防除は、収穫期付近あるいは収穫期間中となるので農薬の使用基準（**収穫前日数**）に十分注意して下さい。
「収穫前日」の場合、散布後24時間以上あけて収穫し、周囲の収穫園にも気を配りましょう。 収穫中の梨にかかった場合は、収穫は散布後24時間以降に実施して下さい。
- マイトコーネフロアブル散布後、ハダニ類の発生が見られた場合は、コロマイト水和剤（2,000倍、収穫前日まで、400㍓/10a）を散布して下さい。
- 徒長枝などへの黒星病（秋型病斑葉）の発生を防止するため、幸水収穫終了後、特別防除（フルーツセイバー）を実施しますので、薬剤の準備をお願いします。
 （※防除日は、「幸水」の収穫状況を見極めて決定し、9月初旬にお知らせします）

4 補正摘果基準

☆着果過多の園では速やかに実施しましょう! ☆

◆「幸水」の目安（満開日が4月20日の場合） ◆「豊水」の目安（満開日が4月17日の場合）

大きさ(横径)	7月25日	7月30日	大きさ(横径)	7月25日	7月30日	8月5日	8月10日
44玉基準	57.5 mm	61.7 mm	40玉基準	51.3 mm	55.6 mm	60.5 mm	64.4 mm

※その他の玉サイズに必要な7月20日以降の果実横径を知りたい方は、資料（前回からの追加版）を配布しますので選果場にお越し下さい。

5 除草剤の使用基準について

除草剤の使用に当たっては、下記の使用基準を遵守して下さい。

- 収穫前日まで使用可能：バスタ液剤（年3回以内）、プリグロックスL（年5回以内）
- 収穫7日前まで使用可能：ラウンドアップハイロード、ラウンドアップマックスロード、サンフーロン液剤、草枯らしMIC（合わせて年3回以内）